令和元年度刈谷市学校給食アレルギー対応給食事業実施委員会議事録

開催日時　令和２年１月２８日（火）午後３時００分～午後３時５０分

開催場所　刈谷市役所　第６０３会議室

出席者

委　員　依佐美中学校校長、富士松東小学校校長、小垣江東小学校校長、

井ケ谷幼稚園園長、依佐美中学校ＰＴＡ代表、富士松東小学校ＰＴＡ

代表、刈谷市薬剤師会代表、刈谷アレルギー児の会代表、富士松北小

学校養護教諭、教育部長、学校教育課指導主事

　オブザーバー　　教育長

　事務局　教育総務課長、学校給食センター所長、主任主査

　　　　　栄養教諭

欠 席 者　刈谷医師会代表

1. 教育長あいさつ
2. 議題
3. 令和元年度学校給食アレルギー対応の流れについて（資料1-1～7）

アレルギー対応の流れについて（資料1-1）

10月上旬にアレルゲンに関する調査を、学校を通じて保護者に依頼する（資料1-2）。

　　　　　11月中旬に書類を保護者から回収し、アレルギー対応を希望する保護者に「学校生活管理指導表」の作成を依頼する（資料1-3）。

　　　　　同表を基に各学校で面談を実施し、教育委員会に申請し、３月下旬に対応を決定する。

毎月の対応として、

　　　　　　翌月分の鶏卵アレルギー対応食予定献立表（資料1-4）

献立材料一覧表（資料1-5）

加工食品アレルゲン一覧表（資料1-6）

などをセンターから送付する。

鶏卵代替実施方法は、センターで調理し、専用の器（校名、氏名入）に入れ、搬送し、職員室で、児童に代替食を渡し、職員が鶏卵アレルギー対応食受渡し確認表（資料1-7）で確認する。

　　　　児童は、自席に戻り、代替食を自分の食器に入れ、喫食する。

1. 令和元年度学校給食アレルギー対応について（資料2-1,2-2）

資料2-1の１．は、「過去５年間の学校給食アレルギー対応状況」です。各年度５月現在の人数の記載で、全体的に増加の傾向を示す。

２．は、令和元年度（２月まで）の鶏卵除去及び代替食の実施状況になる。除去食１０食、代替食１１食、の計２１食を提供する。

３．は、令和元年度食物アレルギー講演会概要です。アレルギー対応の啓発事業として実施しているこの講演会について、今年は「増えている予期せぬ突然の食物アレルギー」と題し、令和元年９月７日に、社会教育センターで、中京大学スポーツ科学部スポーツ健康科学科教授／ＮＰＯ法人アレルギー支援ネットワーク理事長坂本龍雄先生が講演した。今年は広く市民だよりやチラシを全世帯配布して参加者を募ったが、参加者は６３名（昨年９７人）だった。

令和元年度の食物アレルギーを持つ児童生徒について（資料2-2）、アレルギー児童生徒の在籍人数は、中学校４，０４９人中３２６人、小学校８，６１０人中８１５人で、昨年より３３人増えている。このうち、アナフィラキシー症状がある児童生徒が、中学校で８人、小学校で５８人の計６６人で7人の増、エピペンを携帯しているのが中学校で９人、小学校で５１人の計６０人で１０人増となっている。

　弁当の一部対応、全部対応というのは、鶏卵、飲用牛乳他のアレルギーが原因で、給食を取ることができない児童生徒が、給食の代わりに弁当を持参すること。

　この後の項目は、アレルゲンごとに、そのアレルギーを持つ児童生徒の人数を記載しており、アレルゲンに関する調査について、集計をしたものです。上段のアレルギー物質は、「食品表示基準」で法令上表示された「特定原材料」７品目と「特定原材料に準ずるもの」２０品目の計２７品目について掲載した。２７品目以外でのアレルギーは昨年同様メロン、スイカといったうり科の果物があいかわらず多いようだ。

　先の２７品目について、昨年消費者庁から、「アーモンド」が「特定原材料に準ずるもの」に追加されたため、４月からの「加工食品アレルゲン一覧表」などには、「アーモンド」を増やして記載し、保護者へ情報を提供する。

　　【質疑】

　　　Ｑ．資料2-1の献立の中で、２月２０日に八宝菜があったと思うが、代替食になっていなかったのはなぜでしょうか。（小垣江東小学校校長）

　　　Ａ．献立材料にうずらの卵が入っていないので代替にはなりません。（栄養教諭）

Ｑ．食物アレルギー講演会の出席者増についての考えを教えてください。（依佐美中学校校長）

Ａ．令和２年度は講演会以外で検討中です。（所長）

Ｑ．講演会の開催日がこれまで土曜日だったので、学校の立場上先生方に出席依頼をしづらい。保護者の方の事情もあるだろうが、今後開催曜日も考えて欲しい。（富士松東小学校校長）

Ａ．講演会等をするのなら、開催曜日も検討します。（所長）

（３）令和２年度学校給食アレルギー対応について

　　　　　今年度に引き続き鶏卵の代替、除去対応と飲用牛乳の無配膳、そばと落花生を給食で使用しないことを継続していく。

（４）その他

献立表における牛乳の表記を４月から変更する。資料1-4に記載してある献立表は、この４月以降に表記する内容になる。現在献立表では、主食と飲用牛乳は同じ欄に記載され、麺のスープについても同じ欄に記載されている。この際使われている材料が右側に３つに分けて表記されるが、牛乳はスープの原料に使われている場合、飲用牛乳と合わせて「牛乳」という表記がされる。このことについて材料に記載されている牛乳が飲用牛乳だけなのか、スープの原料にも入っているのかわからないとの指摘から、飲用牛乳については「飲用牛乳」と表記し、調理で使う牛乳は「牛乳」と表記することにいたします。

　　【質疑】

　　　Ｑ．チーズ、脱脂粉乳もあれば牛乳同様、「主に体をつくるもとになる食品」の欄に表示されるのですか。（刈谷アレルギー児の会代表）

Ａ．粉チーズとか使われていれば、表記されます。（栄養教諭）

Ｑ．牛乳＝飲用牛乳なのですか。（依佐美中学校校長）

Ａ．「献立名」は料理名としての「牛乳」、「主に体をつくるもとになる食品」は、原材料（食材名）として「飲用牛乳」を使っているという意味になります。（栄養教諭）

　　Ｑ．パックの牛乳が「飲用牛乳」、調理に使用するのが「牛乳」となるのですね。（井ケ谷幼稚園園長）

　　　Ａ．そうです。（栄養教諭）

Ｑ．「牛乳」だけで１行にするのはできませんか。（富士松東小学校校長）

Ａ．献立表に記載できるスペースに限りがあり、「牛乳」だけで１行取ると、1枚に収まらない可能性がある。（栄養教諭）

Ｑ．「パック牛乳」とするのはどうでしょうか。（富士松東小ＰＴＡ）

Ａ．中学校は「飲用牛乳」だが、小学校は「飲用ぎゅうにゅう」と表記されるため、文字数に限りがあり、入りきらなくなるため、「飲用牛乳」でお願いしたい。また、月の初めのみですが、「いんよう」とルビをいれます。（栄養教諭）

Ｑ．「牛乳（飲用）」ではだめですか。（富士松東小ＰＴＡ）

Ａ．（　）で二文字分を取ってしまい、小学校の場合、10文字+2文字になります。文字数が増えてしまうので、このままでお願いしたい。（栄養教諭）

Ｑ．９月からの献立表表記の変更でわかりやすくなった。ありがとうございます。乳製品の回数が減ったと思ったが、２月から増えた。９月から１月は乳製品が月に１～２回で良かったと思っていたので・・・

資料2-2の表で、チョコレート、さかな、生味噌、えびの殻がなぜアレルゲンとして診断されるのか。親が勝手に判断していないか。これらは自分で除去したり、これくらいなら大丈夫と食べてしまっているからではないか・・・と。医者からの診断書が出た際は給食を提供しないというようにはっきりとし、曖昧な態度をとらないように希望します。

また、アレルギーとして学校に指導書が提出されていてもその後改善され、量によっては食べられる子や家庭では普通に食べている子もいると聞いているが、実際には給食が除かれている。どの子にも同じように給食を食べられるようにしていただきたい。（刈谷アレルギー児の会代表）

Ａ．資料2-2は資料1-2のアンケートによるものだから医師の診断はされていないですよね。（教育部長）

　　この表に出ているものすべてにアレルギー対応しているものではない。学校と各家庭でどの程度協議をしているかどうかわかりませんが、資料1-2の様式で４の記入を元に対応しています。（栄養教諭）

Ｑ．給食だけでなく調理実習とか、郊外学習とかでも食べ物を口にするので、そちらも考えて欲しい。（刈谷アレルギー児の会代表）

Ａ．児童生徒のアレルギー対応については、学校内で情報を共有して、担任が子どものアレルギーをきちんと把握して郊外学習や調理実習などでも気にするようにしています。（栄養教諭）

　　学校給食だけでなく、学校生活全般で情報を生かしています。（教育部長）

Ｑ．アレルギー診断をする医者も、アレルギー科とうたっていても、十分なアレルギー診断を行っていないところもあります。インターネットで日本アレルギー学会で検索すると、アレルギーの専門医がわかるので、そういったしっかりしたところで診断書を取ってもらうようにしてほしい。（刈谷アレルギー児の会代表）

Ａ．医師の診断に温度差があるということですが、学校としては、医師の診断に頼らざるを得ない。（教育部長）

Ｑ．鶏卵がだめなら鶏肉もだめという診断を下す医師もいると聞く。医師に対し、正しい診断をしてもらうように働きかけてもらえないか。（刈谷アレルギー児の会代表）

Ａ．非常に大きな問題。保護者の中に、そういった希望があることは受け止めておく。（教育部長）

Ｑ．資料1-4にある「コーヒー牛乳のもと」とは何ですか。コーヒー牛乳がアレルギーの子はそれも駄目ですか。（刈谷市薬剤師会代表）

Ａ．ミルメークというもので、コーヒーは香料になり材料にコーヒーは無いと思います。（栄養教諭）

　　資料1-6について４月以降アーモンドが追加されることにより、吹き出しの中の品目数が変更になります。（栄養教諭）

Ｑ．４月の新年度と９月転入者が多いためできるだけアレルゲンの無い献立にして欲しい。また、ナッツ類など学校給食で初めて食べる食材も子供は、それと知らずに食べてしまい、それによりアレルギー症状を発症しないか不安なので検討をお願いしたい。（富士松北小学校養護教諭）

Ａ．いろいろな食材を食べて欲しくて献立を考えていて、たまご料理も食べて欲しいので、なしというのはちょっと難しいかと。ちなみに４月については、たまご料理はありません。ナッツ類も同様に難しいが、それが使われていることがわかりやすいように工夫していきます。（栄養教諭）

Ｑ．同じ献立でも内容が違う時があるので、この献立なら食べられる、と思っても材料が違うと食べられない場合もあり、間違えてアレルギーの子に喫食させてしまう恐れがある。できれば献立ごとに同じ材料にして欲しい。（富士松北小学校養護教諭）

Ａ．その月の全体で献立を考えていて、同じ日に同じ材料が重ならないように考えています。そうすることで、一方の料理が食べられなくても、もう一方が食べられます。このような工夫が必要なことから、毎回同じ材料でという献立は難しいです。（栄養教諭）